

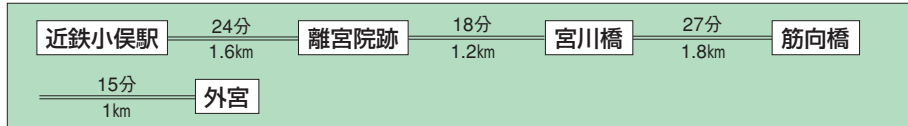
12 小俣～外宮

古から神宮に仕えた
 齋王も通った伊勢街道をたどり、
 宮川を渡って、
 お伊勢参りのクライマックスを歩く。



森に囲まれた離宮院跡。

コース ●全行程…約5.6km ●所要時間…約1時間25分



齋王の離宮院跡へ

伊勢神宮には、古代から南北朝時代まで、天皇に代わって仕える齋王が存在した。齋王は、皇女の中から選ばれ、現在の明和町にあった齋宮に住みながら、内宮外宮へ赴いていた。その道中、宿泊する慣わしだった、小俣にある離宮院の跡を巡り、伊勢街道で宮川を越えて外宮へとたどる。

近鉄線の小俣駅から静かな住宅街を抜けて、JR参宮線の宮川駅方面へ向かう。やがて、共敬のT字路にぶつかり、左折。この道が、四日市市で東海道から分岐した伊勢街道だ。この辺りはもともと神領だったが、江戸時代には紀州藩の領地になっていたため、札の辻に紀州藩高札場跡の石柱が建っている。街道は辻で左折するが、直進して参宮線の踏切を渡る。右手にある官舎神社の鳥居が、離宮院跡の入口で、現在は、1.6kmに及ぶ森林を持つ離宮院公園として住民の憩いの場になっている。

官舎神社は、もともと大宮司家中臣氏の氏神で、地元では「離宮さん」「旅の宮」「大漁宮」とも呼ばれ、親しまれている。

宮川を越えて外宮へ

鳥居まで戻り、右手の緩やかな坂を下って田んぼの中を進む道に入る。参宮線の高架をくぐり、宮古橋で再び伊勢街道と合流すれば、正面は、宮川の土手だ。

宮川の河原には、明治30年（1897）の参宮鉄道開通まで桜の渡しがあり、大勢の参宮者や茶屋で、にぎわっていたという。現在は、少し上流にある宮川橋で対岸へ渡る。ただ、橋は車の往来が激しく、歩道がないので、十分に注意して渡りたい。

道は緩やかに右へ湾曲しながら宮川町の住宅地を進む。途中、左手に「すぐ外宮江十三丁半、内宮江老里三十三丁半」と刻まれた茶屋の道標がある。尚も道なりに進み、県道鳥羽松阪線に出て、浦口の交差点で右折。欄干だけが残る筋向橋を過ぎてしばらく行くと、左手に「お伊勢さんの霊薬」として知られる小西萬金丹の建物が見えてくる。胸焼け、腹痛などの万病に効くと言われ、今でも常備薬として喜ばれている。

萬金丹を過ぎれば、間もなく、右手に外宮の杜が見えてくる。



大木が茂る外宮参道。



官舎神社にて。



街中にある筋向橋。



●問い合わせ／伊勢市観光政策課 ☎0596・21・5565